

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田 (ユニット共通)		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	平成25年 3 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105235-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成 25年 3 月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年でアイリーフ当新田が誕生して10周年と節目の年となりました。少しずつ地域の方々との関わりが増えていき、今では積極的に地域の行事に参加したり、地域の方々がホームの行事に参加してくれています。
今年度は以前からの課題であった「家族とのかかわり」に力を入れています。ホームに入ると家族との距離ができてしまいます。そこで、ホームだけに任せっきりにならないよう、ご家族の役割を明確化し、協力を求めています。
職員、ご家族、そして地域の方にも協力していただき、入居された方がその人らしい生活が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「認知症の人が家庭で自立に近い共同生活を」としてスタートしたグループホームも、厳しい日常に立ち向かわねばならない状況が多くなってきた。種々の理由でホームでの暮らしが困難な利用者に対しても、ここでは職員が懸命な努力でケアしている。今年開設十年目となるが、今までに幾人もの尊厳ある看取りも体験した。職員のきめ細やかなケアに加えて、おおらかで明るい、逞しさも感じさせるこのホーム特有の雰囲気がこの現状を生み出しているのかもしれない。また、十年近く法人が実践し続けている「改善コンクール」に対して真摯に取り組み、日々の業務やサービス向上につないできた歩みが、このホームの基盤となっているに違いない。今年が一番の弱点であった「家族との関わり」にチャレンジすると聞いた。このようにあくまでも前向きな姿勢を応援し続けたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールに掲示されており、スタッフ全体で共有し実践につなげられるよう心掛けている	法人アイリーフの掲げる理念は、チャレンジシートを使って、具体的目標を達成する為のシステムが確立され、日々実践へ向けて努力しているが、管理者の「利用者一人ひとりに、ここにおいて良かったなあ、と言ってもらえるホームにしたい」の言葉に集約されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事(掃除、祭りに出店)等に参加し交流は以前に増し広がってきている。地域の小学校や幼稚園、ボランティアの方々との交流も増えている	ホームの開設間なしの頃から「地域に溶け込んだグループホーム」を目指し、改善コンクールでもチャレンジを続け、良い成果をあげてきた。近所のスーパー等、数ヶ所で続けている作品展示も波及効果が大きいと思う。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示版や回覧板を活用し発信に努めている。 小学生が認知症を学びに来る事もあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方共に参加少なく毎回決まったご家族との話し合いとなっている。その中で意見に対してサービス向上に努めている。	ホームの取り組むべき目標の一つに、運営推進会議の運営状況を掲げている。会議録にはホームの現状報告や参加者の意見交換・ホームへの要望等、詳しい記録が見られるが、さらに参加しやすい工夫やテーマ設定の改善を考えている。	運営推進会議については、その計画や位置付け・運用方法等によってその効果は大きな差が見られる。目標達成計画の項目に引き続き取り上げ、見直し改善して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築けるよう努めている。	運営推進会議への行政担当者への参加依頼は今後も継続したい。地域包括の担当者からの問い合わせや依頼があり、良い連携はとれているが、ホーム側からの「独り暮らしの方のマップ作り」等の積極的な働きかけは今後も続けて欲しい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全体で身体拘束について理解し、身体拘束しないケアに努めている。	禁止の対象となる様な具体的な事例は無いが、以前、転倒後骨折した利用者に一時期ベッド足元にセンサーマットを置いた例がある。短期間で家族の了解も得ての実施であったが、日頃から正しく理解する様、研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に拘束となっていないかカンファレンスで話し合いを行い身体拘束や施錠のないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持っていないのが現状である。成年後見人を活用される入居者様が増えてきているので学ぶ時間を持つよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族に事業所のケアに関する考え方や取組、退去を含む対応可能な範囲や利用料金、リスク、重度化、看取りについて細かく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等にて常に要望を聞き実践するよう努めている。	今回の改善コンクールのテーマを「ご家族との関わり」に設定し、すばらしい取り組みをしている。中でも家族との関わり専用の申し送りノートの作成や業務の改善が良い。運営推進会議への家族参加方法検討も期待できる。	今まで十分取り組めなかった家族との関わりに現在注目している事は、十周年を迎えようとしている現在有意義な事と思う。今後のホームの有り方にも大きな影響があると思うので、今回の研究発表を礎にしてさらに充実させて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とコミュニケーションを図りながら、要望や意見を聞くよう努めている。必要に応じ個別に時間を作るようにしている。	会社の運営方針として職員の意見や要望にしっかり耳を傾けようという姿勢があり、チャンスも設定されている。ホーム内では、職員間や利用者も交えた普通の会話の中で、色々な意見や思いも話されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回チャレンジ目標を決め達成できるよう努力している。また二カ月ごとに個人目標を掲げ、目標達成となった職員を皆で評価、決定しMVP賞を与え、モチベーションUPを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせ、外部研修に参加できるようにしている。内部の勉強会も学びたい内容を職員にアンケートで聞きテーマを決め、行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二カ月に一回、関連の事業所や他の事業所との勉強会を行い情報交換やサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人やご家族から情報収集を行い、本人様の状態把握に努めている。信頼関係が築けるよう要望等をしっかり傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の想いや要望等は傾聴するよう努めている。入居後も面会時に遠慮される事なく話せる雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人様より情報や想いをしっかりと聞き、何が必要なのか見極められるように努めている。 また新しい環境に馴染んでもらえるよう環境づくりにも配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもっていただきお互いに協働しながら過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に報告、相談し情報共有すると共に今年度よりご家族の役割を作り職員と共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住む家族の面会に同行したり、季節のお便りを出したり、ご家族に協力を得て昔ながらの知人を連れてきていただけるようにし、関係が途切れないよう支援している。	馴染みの人や場の中でも、特に家族との関わりに注視している現在、数多くのうれしいエピソードがみられた。家族を通して、また家族の協力を得て、家族以外の馴染みの人や場につながった事例も聞いて、今回の試みの影響の大きさを感じた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極めながら、孤立することなく利用者同士が支え合いができる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、行事にボランティアとして参加して下さったりと関係が継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のご本人様の何気ない言動等を気に留め、その人らしい生活ができるように努めている。ご家族の想いや意向も尊重している。	「どんなにホームの暮らしが良いとしても『家族とのつながり』に勝るものは無い」という利用者の心の内の訴えを職員が代弁して、現在このホームは今までにない動きを始めている。粘り強いチャレンジを期待している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からの会話やご家族からの情報をもとに、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることの発見に努め、継続して行えるよう支援している。一日の過ごし方や健康状態等を申し送りや伝え、介護記録にて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人の言動からご本人の望んでいることを把握し、ご家族の面会時には想いや意向をしっかりと聞き、介護計画を作成している。	「利用者の本当の願いが反映されたケアプラン作り」を目標達成計画に掲げ取り組んでいる。前年度からの継続項目で、具体的で解かり易く、現状に即した柔軟な支援が可能なプランを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申送りやカンファレンスにて職員間の情報共有に努めている。また個々の介護サービス計画実施評価を記録に残し、必要に応じて介護サービス計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に対して、柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加することで地域交流を図っている。利用者の作品を地域のスーパーや公民館に展示したり作品をお土産で配ることで自信となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明を行い、納得を得ている。ご家族の希望があれば他病院の受診も対応している。	家族と共に外出、外食もついでに楽しむ受診もあるが、受診支援は原則としてホームの看護師が対応しているので安心できる。ホームのかかりつけ医の協力体制も力強く往診もお願いできるので、医療面の問題は無い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者の異常の早期発見に努め、異常があれば24時間体制で看護師と連絡、相談ができ、速やかに受診・往診できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院との情報交換を常に行い、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りとなった場合に事業所ができる事の説明を行い、その後は状態に合わせて常にご家族に報告・相談し、情報を共有しチーム全体で支援するよう努めている。	昨年も3人の利用者が老衰で、自然な看取りをしたし、現在も支援中の利用者が居る。ホーム開設以来幾人もの送りを経験して、職員は悲しい別れに立ち会ってきたが、この方達から多くのものを戴いて成長してきたと思う。残された家族にも、良い思い出をプレゼントできたに違いない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加したり、事業所内でも勉強会を行い、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が迷いなく入居者の方を安全に避難できるようにどんな災害でも対応できるよう避難訓練を行っている。地域の方にも避難訓練に参加をしてもらっている。	大震災やグループホームの火災を教訓に、災害対策に、より現実的に向き合い始めた自治体やホームが増加しているが、このホームでは以前から真剣に対策を考えてきた。去年は改善コンクールのテーマにも掲げ、そのマニュアルを元にさらに広げようとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守ったケアができるように職員が共通の意識を持ち、1人ひとりに合わせた対応ができるよう心掛けている。	利用者一人ひとりの本当の思いを尊重したいとして、何気ない発言やつぶやきを記録に残しカンファレンスにつなごうと試みている。また、人格尊重やプライバシー確保等は会社の方針として、会議や勉強会等で、また日々注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人に確認し、選択肢がある声掛けや希望や想いを引き出せるような関わりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の要望等を聞き、できるだけその方のペースを合わせ、自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じた身だしなみや服を着てもらうように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、食事の準備や片づけをしてもらっている。また誕生日や毎月のお楽しみ食事会には、利用者の方に献立を決めてもらっている。	ミキサー食等、特別な人以外は、その人に合わせたきざみを入れる程度で、皆同じ食事を楽しんでいる。「美味しい」と、今日の味付けを誉めながら「今度はステーキを一緒に食べに行こう！」等、職員を誘って皆を大笑いさせている人も居た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の能力に応じて、食事の準備や片づけをしてもらっている。また誕生日や毎月のお楽しみ食事会には、利用者の方に献立を決めてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて援助するよう努めている。必要に応じて歯科往診にて指導、助言を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導や声掛けを行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	綿密な個別チェックから職員はそれぞれの人の排泄状況をよく共有し、さりげない声掛けや本人の表情・サインで上手い排泄支援をしていた。個々に合わせたパット等の工夫で、できる限り自立へ向けた対応を心がけていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事管理、適度な運動を取り入れ、便秘予防に努めている。必要に応じて主治医、看護師の指示のもと、内服薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが、気持ちよく入浴できるようにその都度確認し、無理強いすることなく、臨機応変に対応している。	日曜日はお休みとして、原則一日置きの入浴で組んでいるが、それぞれの体調や希望を優先させるようにしている。入浴拒否の人に対しては、状況の良さそうな時に声掛けをしてみている。重度の人には、職員総動員体制で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握し、ご本人のペースで心地よく休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気を理解し、薬の目的や副作用等、看護師より説明があったり、受診ノートにて情報を共有するよう努めている。配薬時、声出し確認を徹底し、確実な服薬介助が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や外出、外食、作品作り等得意なことや役割を把握し、個々に合わせた気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて、買い物や外食や散歩に出かけられるよう支援している。	スタッフルームの壁に見られる3月・4月の個人目標に「〇〇様を散歩に誘う」等、日常的な外出支援を挙げる職員もいた。「家族との関わり」チャレンジでも、「家族と買い物・外出・外食」等が見られ、今後支援も活発になりそうだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望や安心感に繋げるため、ご家族の協力、了承を得て、少額のお金を管理してもらう事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎週季節の花が飾られたり、利用者が中心となって季節に合った作品を作り、飾ることにより居心地の良い空間となるよう努めている。	広いリビングルームではテーブル・椅子・ソファーその他が点在し、その人の居場所が多く見られた。交流が頻繁にある小学生のおたよりや作品、利用者の自慢の作品や書、利用者が活けた花等々が、ここでの楽しい日常を物語ってくれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりが好きな場所で過ごせるよう空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の使い慣れた家具や馴染みの物を置き、心地よく過ごせるよう工夫している。	見事に美しく描かれた塗り絵等の作品や手作り品、写真や本人の持ち込み品、家族や職員からのメッセージ等が飾られ、思い思いの居室になっていた。長年共に暮らしたワンちゃんの写真に涙しながら、自分の人生を語ってくれる人も居た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にとってわかりやすい表示や使いやすい工夫をし、混乱が軽減できるよう努めている。		